
8月13日

れいと

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

8月13日

【Zコード】

Z5672A

【作者名】 れいと

【あらすじ】

誰でもよかつた。かわりが欲しかった。一人がいやだった。その時に出会ったあなたとの話。

そう。あの日は雨だった。

雨の中声を押し殺して泣いたつけ。

泣いてるんじゃないよ。雨のせいだよ。って誤魔化すために。最後まで意地をはつて素直になれなかつた夏。

5月のある日。彼氏と別れた。もうすぐ嫌な梅雨。
雨なんて大嫌い。嫌なことすべてを思い出してしまひ。

部屋の窓から外の景色を見る。薄暗くて雨の音が聞こえると考え事をしてしまう。だから雨が嫌い。でもあいつとなら嫌いな梅雨にいっぱい思い出作つて雨が降つても笑つていれると想つた。
そんな矢先にゆづきと別れた。

人を本気で好きになる事を教えてくれた人。本気で好かれてうれしいつて気持ちを教えてくれた人。好きじゃないメールも好きになつた。だからこそ今のはたしは意味がないように思えた。

5月17日。晴れ。

今日はやけ酒してみた。嫌な事を忘れない。だから友達ときた。そんな時あなたと出会つたんだよね。

飲んだ帰り道、友達がコンビニへ立ち寄った。飲みすぎたらしい。コンビニの外で煙草を吸いながら友達を待つ。見覚えがある車が通つた。

「ゆうき…」

小さい声で呼んでみた。ゆうきの車かどうかはわからないが同じ車だった。

忘れるつもりが思い出して泣きだしてしまつた。声に出さずに涙だけ流した。下をむいてしゃがみこむ。誰も泣いてるなんて気付かないだろう。そう思つて泣いた。静かに…。

誰かがあたしを呼んでいる。顔をあげてみると知らない人。

『携帯忘れてつたよ? はい。…泣いてるの?』

ありがとゆうござります。

その一言をきちんと言えなかつた。

あたしは居酒屋に携帯を忘れていたらしく、しばらくして友達が戻

つてきてタクシーを捕まえて帰つて行つた。

あたしは家が近くだから歩いて帰る。その人にもう一度お礼を言つと

『俺この後暇だし話をくよっちょっと話しない?』

正直誰でもよかつた。一人になるのが怖かつた。

ゆづきの事は話せなかつた。そんなあたしをみた彼はくだらない話をしてくれた。

あたしは携帯を何気なくみた。一通のメールがきてた。ゆづきから
だつた

【今からやつち行つていいく】

私は急いで帰らうとした。いいよ。つてメールを返して立ち上がつた。どうしたの!つて腕を捕まれたけど振りほどいて走りだした。ごめん!ありがと!

そう言つと紙を渡されて

『なにがあつたら連絡して!』

つて言われた。その紙を握り締めて走った。部屋に戻つて明かりをつける。

どんなに待つてもやつまはこなかつた。

寂しさがつのる。

ふと田に入つたくしゃくしゃな紙。連絡してみた。

その日はあたしが寝付くまでずっと話してくれた。

彼の名前は恭。あたしの二個上。隣の市に住んでるのにあたしの住んでる市の駅の居酒屋で働いている。

恭ちゃんはあたしの事をアキと呼ぶ。アキラつて男みたいな名前が嫌い。つて言つたらアキつて呼んでくれた。恭ちゃんが呼ぶアキつて声が優しくて好きだった。

6月5日。曇りのひ雨

恭ちゃんの家に行つた。恭ちゃんと遊んでいたら雨が降ってきて恭ちゃんの家に行く事になったから。

恭ちゃんとあたしはその日に付きました。やつきのかわりなら誰でもよかったです。優しくてほつとけない恭ちゃんを利用した。

それから一ヶ月、毎日連絡をとつた。

時間さえあれば会つていた。悲しくなつて泣いているとすぐきてくれた。あたしが恭ちゃんを本気で好きになるまで時間はからなかつた。

離れてるのが怖くてあたしは恭ちゃんの家にずっととこにこなつた。あたしが帰ると恭ちゃんは仕事でいなければ料理を作つて待つていた。待つてる時間は長く感じなかつた。幸せな毎日だつた。

休みがあれば一緒に買い物にも行つた。

それにたまにホールで余話をしていた。夜呑酒屋で働く恭ちゃんと、昼間働くあたしは時間が合わない時が多い。

恭ちゃんの字は綺麗であたしの字はくせ字で女の子字だった。

毎日樂しくて幸せだつた。恭ちゃんがゆづきへの想いを消してくれ

た。

でもその幸せは続かなかつた。その時はまだ知らなかつた…

8月のある日、喧嘩をした。

あたしは怒つて荷物をまとめてでていつた。別れる別れないじゃなく恭ちゃん家にいる事をやめた。それだけのつもりだつた。

あたしは家に帰つても怒りがおさまらない。明日電話で文句をいつてやるうーそれで仲直りして会いたい。怒つてもやつぱり好きだから…

そつ思ひて眠りについた。

次の日に連絡するつもりがあまりにも忙しく時間が経つた。恭ちゃんからの連絡はない。

8月13日

日付が変わってから電話した。恭ちゃんと電話して話をする。恭ちゃんは仕事帰りみたいで車の音がうるさい。素直になれず意地

をはつて自分からはあやまらなかつた。そつけない態度をとつていた。電波が悪く電話が切れた。

何度電話しても電波が悪くてかからない。しまいには圏外になり、外にでて電話する。外は雨が降つていた。恭ちゃんはでない。何度もかけてもでない。

諦めて部屋に戻ろうとするとメールがきた。

電話が切れてあたしの携帯の電波が悪かつた時に送られてきたメールだつた。もう30分以上経つてた。

【大好きだよ。俺が悪かつた。ごめんね。仲直りしよ?】

それからあたし達は一度と会う事も連絡とる事もなかつた。とる事ができなかつた。会う事が出来なかつた。悲しい別れだつた。

素直になれずにつまらぬ意地をはつて終わつた。最期にあたしも好

まだよつて詮わざに終わった。

最初は立ち直れなかつた。恭ちゃんのかわりなんていらなかつた。
誰でもいいわけじゃない。恭ちゃんじやなきやだめだつた。

それから一年、恭ちゃんと出合つたら用が訪れた。

今は前にすすんでます。恭ちゃんと一緒にないけど想いはずつと
心はずつと…恭ちゃんだけだから。

ありがとひ。

大好きです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5672a/>

8月13日

2010年12月14日21時25分発行